



今を生きる喜び。誰もが味わえる本当の自由。

「人生のバイブル!」多くの読者を救ったロングセラー・エッセイを映画化!

原作は人気エッセイスト、森下典子が茶道教室に通う20年の日々を綴ったロングセラー。瑞々しく描かれる心象風景や青春像、そして「お茶」がもたらす人生訓的な“気づき”の数々は、茶道経験者の枠を越え、様々な岐路に立つ読者にとって心の拠り所となっている。主人公、典子を演じるのは黒木華。その卓越した演技力で、一人の女性の人生をたおやかに演じる。監督・脚本は大森立嗣。初タッグとなるこの二人によって描き出される時の流れは、美しく、そして儚い。武田先生を演じる樹木希林は「習い事の先生」という枠を大きく超えた人生の師匠として、大きな包容力で典子たちを導いていく。そして、典子のいとこ・美智子役の多部未華子が、お茶室に飾られる一輪の花のように映画に彩りを与え、静かな物語に躍動感を与える。日本映画界屈指の実力派キャスト・スタッフで贈る、一期一会の感動作がここに誕生した。



日日は好日
それはお茶が
教えてくれた幸せ。

真面目で、理屈っぽくて、
おっちょこちょい。

そんな典子（黒木華）は、
いとこの美智子（多部未華子）と
ともに「タダモノじゃない」と
噂の武田先生（樹木希林）の
もとで、お茶を
習う事になった。

細い路地の先にある
瓦屋根の一軒家。
武田先生は挨拶も程々に
稽古をはじめが、

意味も理由もわからない
所作にただ戸惑うふたり。

「お茶はまず「形」から。
先に「形」を作っておいて、
後から「心」が入るものなの。」
と武田先生は言うが――。

青春の機微、就職の挫折、
そして大切な人との別れ。

人生の居場所が
見つからない典子だが、
毎週お茶に通い続けることで、
何かが変わっていった……。

にちにち
これこうトッ
日是好日



世の中には「すぐわかるもの」と「すぐわからないもの」の二種類がある。

すぐわからないものは、長い時間をかけて、少しずつ気づいて、わかってくる。

子供の頃はまるでわからなかったフェリーニの『道』に、今の私がとめどなく涙を流すことのように。